

令和4年度 第1回村上市総合教育会議 議事録

開催日時：令和4年11月22日（火） 15時30分～16時45分

開催場所：朝日支所2階 会議室

出席者：【構成員】高橋市長、遠藤教育長、大滝教育委員、小川教育委員、板垣教育委員

【事務局】渡辺学校教育課長、平山生涯学習課長、仙田管理主事、

宮川神林中学校長、太田社会教育推進室長

東海林総務課長、小川参事、大滝危機管理室長、佐藤防災専門員、

菅原主査

【傍聴者・報道関係】1名

欠席者：横山教育委員

- 会議次第：1 開会
2 市長あいさつ
3 教育長あいさつ
4 意見交換
 (1) 防災教育について
 (2) その他
5 閉会

議事録

（東海林総務課長が進行）

1 開会

○総務課長

今日をご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

会議の方は15時30分開会となっておりますが、会議に入ります前に、本日の資料について確認をさせていただきたいと思っております。本日の資料でございますが、会議の次第、それから資料の1、小中学校防災教育実施状況調査、A3横版のものでございます。それから資料の2 防災教育の取り組みについて、それから、資料の3の1 令和3年度村上出前講座実施実績、資料3-2 防災出前講座メニュー一覧表、以上が今日の資料となっております。皆様お手元にご覧いただけますでしょうか。

先ほど教育長からお話ありまして、横山委員につきましては都合により欠席というご連絡が入っておりますのでご報告をいたします。

それではこれより、令和4年度第1回の村上市総合教育会議を開会いたします。最初に高橋市長からごあいさつを申し上げます。

2 市長あいさつ

○市長

皆さん改めましてこんにちは。

今日は総合教育会議よろしくお願ひしたいというふうに思っております。すでにご承知の通りであります。8月3日から4日未明にかけての豪雨災害、これまで経験したことのない災害で、特に荒川、神林地区の子供たちを中心にして、学校に通うための道具、たまたま夏休み期間中であつたわけでありましてけれども大きくダメージを受けました。何よりも、住んでいる家が非常に大きな被害を受けたということで、その精神的ダメージはいかほどかということで非常に心配をしていました。その対応についても教育委員会を始め、各学校現場でしっかりやっていただいたなというふうに思っております。

ちょうど発災直後、翌日か5日だったと思ひますが、保内小学校に行つてきました。そし

たら、学校職員が総出で、また応援部隊も入っていただいて、保内小学校の教室、体育館、廊下の土砂を掻き出していました。大変でした。あのような状況になって、その後、乾いてはきているのですが、張り込んだ床材がめくり上がるような状況で、何とか2学期に間に合うように修繕に取り組んでもらったわけですが、バリケードをして子供たちがそこに入らないようにというような、そういう配慮も必要な状況でした。

そうした中で、55年前に羽越大水害を経験しています。ちょうど私が小学校に入学したときかその前だったと思います。私の母親の実家が荒川地区の佐々木集落なので、教育長よくご存知だと思いますけれども、あの当時、荒川の堤防が霞提だったので、少しの雨でもオーバーフローするような状況でした。それが8月28日、29日の羽越大水害では、今聞いたら約30時間で860ミリという雨だったそうであります。長く降るのも大変なのですが、短時間に集中してドーンと降るといような状況になると、あれだけの被害を及ぼすのだなと思いました。

そうした中で国県はもちろんですが、各関係機関のお力をいただきながら、ようやく緊急の応急復旧のめどを立てつつあります。そのことを受けて、市では11月1日ですけども、復興タイムライン、これを約5年のスケジュールの中でしっかりと復興させていこうということを公表させていただきました。一応、今の目安として5年間でありますけれども、一刻も早く、1日でも早く前倒しをしなければならないというふうに思っています。現在、小岩内地区の皆さん、36世帯全世帯避難していただいております。そのうち33世帯が荒川地区公民館の北側の駐車場に仮設住宅を設置いたしまして、そこで住まいをしていただいております。避難生活が長引かないように、何とかしていきたいと思っております。住み慣れた家、完全にもう流れた家もあるわけですから、その人たちの生活の再建を本当にしっかりやらなければならないというふうに思っています。ぜひ、教育委員会サイドからも子供たちの心のケアとか、そういう面でお力をいただくことになると思っておりますけれども、よろしくお願ひしたいというふうに思っております。

そうした中で、今回広島に中学校の皆さんを派遣させていただきました。被災した生徒もいたのですが行っていただくことができました。その中で、いろいろなことを受けとめてきたなということを感じています。経験というのは非常に大切であります。これまでも行っていただいた子供たちがみんな言うのですが、自らが経験したことをしっかりと帰ってきて、自分の学校であったり、周りの人間に伝えていく。それが非常に大切だと思っております。戦後77年経過して、記憶に残っている方々がどんどんいなくなるわけですので、これは絶対風化させないという、こういう仕組みは絶対必要なのだろうというふうに思っています。それがまさに教育だろうというふうに思っております。我々はこうした豊かな自然の中で暮らしています。しかしながら、この自然がひとたび牙をむくと大変なことになります。これも経験であります。そういったところをですね、しっかりと、自らの事として受けとめながら、日々成長していただければいいというふうに、私自身思っております。それを行政としてしっかりとサポートしていく。これが、これからの村上市、これを将来に向かって持続可能なものにしていく『まちづくり』と言うのですかね、行政運営だろうというふうに思っています。

そういった意味で、重ねて申し上げますが、教育は非常に重要であります。その教育の分野を皆様方にお支えいただいておりますことに心より感謝申し上げます。冒頭の挨拶とさせていただきます。本日は何卒よろしくお願ひいたします。

○総務課長

ありがとうございました。

それでは引き続きまして、遠藤教育長からごあいさつをお願いいたします。

3 教育長あいさつ

○教育長

皆様、こんにちは。

本日は、総合教育会議の開催、ありがとうございます。

今年度は、学校教育に関しましては、ICTを活用した教育環境整備のさらなる充実、校務支援システムの導入、それから小学校の通年スクールバスの運行範囲の拡大、部活動の地域移行に向けた環境整備、そして、就学援助費の費目の追加、防犯カメラの全校配備、さらには、学校給食の食材高騰分への補助、そして12月からは多子世帯への給食費の無償化など、多くの施策を推進させていただいております。

また、中学校体育館照明のLED化は資材納入が遅れ気味となっておりますし、今ほど市長からお話のあった水害被害の保内小学校の改修はこれからスタートしますが、何とか年度内に終了させたいと考えております。ちょっと天候もありますので、外回りは難しい面もあるかもしれませんが、年度内終了を目指しております。

ただ今後は、多くの公共施設を所管する教育委員会として、学校や市民の多くの要望を踏まえながらも、やはり厳しい財政状況であることをしっかり踏まえ、特に投資的経費のかけ方については、市全体の中で慎重に検討していかなければならないと考えております。少子高齢化や人口減少が進む中で、本日のように、市長部局との十分な連携を保ちながら先を見越した教育行政の推進にこれからも努めていきたいと考えております。

本日は、神林中学校宮川校長先生から実践報告をしていただくことを通じて、タイムリーな学校教育における防災教育の必要性や充実について協議いただくこととなります。地域の将来を担う大切な人材を育成するという意味で、本市の目指すこれからのまちづくりに向け大いに意義があることだと考えております。限られた時間ではありますが、本日はよろしくお願いたします。

4 意見交換

○総務課長

ありがとうございました。それでは早速、意見交換に入ります。

進行につきましては、村上市総合教育会議設置要綱第6条の規定によりまして、高橋市長が行います。それでは市長よろしくお願いたします。

○市長

それでは、さっそく意見交換に入らせていただきます。

意見交換の1点目、防災教育について学校教育課の方からよろしくお願いたします。

○仙田管理主事

管理主事の仙田です。よろしくお願いたします。

まず、新潟県の防災教育プログラムというのが現在あります。ここに、例えば今回関係するのが洪水災害ですが、洪水に関してはこれ1冊になっていますし、津波であれば津波、これ1冊というような形で、全部で6種類の、原子力災害も含めて6種類のものが、市内の小中学校、市内というよりは県全体に配って、毎年、子供たちはすべての内容について学ぶというふうになっています。

これは文科省がもともとと言っているところがありまして、生きる力を育む防災教育の展開ということで、平成25年に出されているものなのですが、その中で、小学校段階の目標、中学校段階の、それぞれ防災教育の目標というものを設定しています。それを受けて、新潟県としては、この防災教育を全県で取り組んでいるということになります。実はそれが、一覧でお配りいたしました、小学校、中学校それぞれにおける防災教育の実施状況調査の一覧表になります。最初は村上小学校、例えば1番を見させていただくとありますが、本年度実施

する予定の、まずは避難訓練について書いてありますし、その次のところが、今ほどお話をした防災教育の内容を、どれをやったかというふうなことでの調査になっています。小学校の低中高学年のものがそこに書いてあります。学校によっては6つすべてをやっているってようなことがこれを見るとわかると思います。

あと、その他として起震車による地震体験活動、起震車も例年のように希望を出してやっているのですが、小学校は2年1回ぐらいの割合でやっているというふうになります。

また、この後お話いただくところになるかと思いますが、防災の出前講座についても、小学校では、今年度3校、村上南小学校、神納小学校、さんぼく小学校3校が出前講座を実施しているということになります。指導ということで、講師として危機管理室の防災専門員の方にお越しいただいて、実のある講座をしているということになっています。

一番右のところには、学校独自の防災教育の取り組みということで、各校で行っているものを幾つか記載していただいたものです。同様に中学校も見ていただくとわかりますが、基本的には、県の防災教育のプログラムを使いながら、あと学校のその地域に応じたもの、人材等も活用しながら、防災教育に取り組んでいるということになります。

災害の種類として、先ほどもお話しましたが6種類ありますので、これは正直、例えば新潟県だから雪というのものもあるのですが、新潟県にいるから雪災害なのかということもあるのですが、要は、子供たちはどこにいるかわからないわけですね、これから大人になっていくなかで。そういうことで、津波、地震、洪水、土砂、雪、原子力、考えられるものすべてを網羅して学習するというふうに、新潟県の子供たちについては、そういう災害から多くを学ぼうということで、学習プログラムが組まれて、取り組みを続けているということになります。中学校の一覧のところをご覧くださいとわかりますが、神林中学校に関しては、防災の出前講座を実施しております。その内容について、以前、宮川校長先生から地域と学校のオープンセッションの中でご紹介いただいているのですが、今回、宮川校長先生から、実際に子供たちの声なんかも含めてお話いただけますので、お聞きいただければと思います。

では宮川先生、お願いいたします。

○宮川神林中学校長

神林中学校校長の宮川です。よろしく申し上げます。

今、お話にあったように、先日行われた学校と地域を結ぶオープンセッションのところで発表したものなのですが、防災教育に絞ってあげさせてもらいましたので説明させていただきます。地域とともにできることは何かということは、私は神林中学校に着任したのが3年前なので、そのころから地域とともに何かをやりたいなというふうに考えておりました。何ができるかなと。ちょうどコロナの中で着任したので、なかなか行動することができず、ちょっと困っていたところでした。その中で、災害については本当にいつ起こるかどこで起こるかかわからない。大切な命を守るためには、その時どう行動するのが大切になってくる。これは本当に1人では難しいし、他の協力が必要になってくる。他というのが、家族であり、学校の仲間であり、その学校だけではない。地域の人たち、すべての協力が必要なんじゃないかと考えました。地域とともに、防災に対する知識や命を守るための行動を学ぶのは、生徒にとっても大人にとっても、これから生きていくためになるのではないかと考えました。だから、学校と地域を結ぶのは防災教育じゃないかというふうに私は思ったのです。

学校の教育計画の中には、防災教育の目指す生徒像というのがあります。生命を尊び主体的に行動する態度、自助、共助、公助の意識を持ち、災害に適切に対応できる生徒を目指す生徒像としておりました。いろいろな避難訓練等も入っていたのですが、ここで神林中学校として、防災教育を行いたいというふうに考えました。中学校3年間の中で、計画的、系統的な防災教育を実施することで、防災に対する意識を高めて、将来にわたって、つまり、いつでもどこでも生きる基礎的な知識を得、そして、状況に応じて必要な行動がとれる生徒を育成したいというふうに、この3年間をきちんとした計画でやっていきたいと思ったのです。

大体避難訓練は2回あるのですけれども、それだけで終わってしまい、そして、そのプログラム等もその時の先生が何をするかによって、また教材もその時の先生が考えるということで、系統的なものがない、計画的なものがちょっと弱いのではないかと思います、変更したいなと思いました。それで、3年間の学習計画なのですが、一年生はマイタイムライン、2年生は逃げ地図作り、3年生は避難所運営ゲームという、これはすべて出前講座の中にあるものです。私は社会教育委員も兼ねていて、その会議の中で、実は出前講座というのがあって、防災のプログラムがたくさんあるというのをそこで見ました。そうしたときに、これを学校でやってもらうことで、非常に経費もかからず、とてもいいなというふうに思いました。そこで、やはり地域の力を借りるということで、実は、先生方はもう教育課程、決められたものの精一杯です。いろんなことが入ってきているので、授業を行うのは教員ではなく、村上市総務課危機管理室や神林支所の方、そして地域の防災士の方がいらっしゃるので、そういう方々が教員になっては教えてもらう。つまりこの人たちは防災のプロですので、そのプロに教えてもらおうと思いました。防災に対する意識、正しい知識、それから適切な行動をプロから学ぼうと思います。これは、生徒もそうなのですが、先生方もやはり防災のことに関しては、プロから学ばなければならないなど。そして地域の人もということで、地域とともに取り組む活動として、ずっと続けていきたいなと思いました。ある今年だけこれをバーンとやるというのではなく、同じことなのだけど、地道なのだけれど大事なことをずっと継続する。私がいなくなっても、他の先生が入れ替わっても必ず3つのプログラムをやって、子供たちが力をつけていく、3年間で力をつけるということを考えていました。

この3つをどういうふうにした方がいいかというのは、村上市の総務課危機管理室の方が1年生はこれがいいだろう、2年生はこれだろうということで示してくださいましたので、その通りに行いました。マイタイムラインは、洪水、土砂災害に関する基礎的な知識を学び、実際に各自の住む地域のハザードマップを確認して、台風等の接近によって河川の水位が上昇するときに、自分自身がとれる標準的な防災行動を時系列で整理し、まとめる活動です。ちょっと難しいのですけれども、自分が住む地域もみんな違う。家族もみんな違う。ハザードマップで見た時に、自分たちのところがどのくらいの危険度があるのかとか、どのくらい何を持っていかなければならないのか。どういう時に逃げなければいけないかということ、自分の行動を整理するというのがマイタイムラインです。ねらいは、その地域のリスクを知り、気象情報の入手方法を知ること。どういうふうにして情報を得るかということを知ります。それから、どのタイミングでどんな行動をとればいいかを自分たちでチェックする。そして、その時々最良の行動を判断するための手助けとするということを目的としました。

学習の流れは3時間でやります。年3時間で行ってもらっています。最初は知識の習得、そして個人の活動で、グループでの交流や振り返りを行いました。まず、タイムラインというのは何かということ、村上市の危機管理室の方に来ていただいて、お話をしてもらっています。スライドに映っている緑のベストを着用している方が地域の防災士の方になります。生徒たちは、まずその知識を得るということでお話を聞いています。ここに女の子が書いているのは、これはマイタイムラインの表になります。自分の家の近くに川がないかというような、まず自分の住んでいるところから始めています。その後、お互いに、あなたの家はどうかというふうにして、お互いに確認しながら見ていました。

これは、どういうときにどんな傾向が出てくるかということ、クイズ形式でやっているものです。どこになったら逃げなきゃいけないか。どこが危険なのかを子供たちはこれで把握していました。

そして最後は、マイタイムラインを作った後に、振り返りの部分なのですけれども、自分たちが普段は何をしななければならないかとか、準備のことですね、やらなきゃいけないかとか、災害が発生した場合にどうするかとか、私たちできることは何かというようなことで、それぞれみんな意見を出しています。このようにして、お互い発表して、これは学校の方に掲示してあります。

続いて2年生ですが、2年生は逃げ地図作りです。逃げ地図作りは、津波が来た場合とい

うことで、津波避難に関する基礎的な知識を学び、道路を歩いて避難する際に、津波による浸水が想定されている区域内から、避難地点までの最短経路を何分でたどり着けるかを示した地図を作成するという活動です。

まず、地域の津波の想定やリスクを知るということです。神林中学校区に塩谷集落がありまして、海岸があります。そこに津波が来るということで、そのリスクを知る。それから実際にそこを歩いて、避難経路を歩いて、ここは危ないねとか、ここは狭いねとか、水が来たら見えなくなるねというような、そういうことを考えながら実際の行動をとっていく。そして、津波に対する最良の行動を判断するための手助けをするというのを目的としています。この学習の流れも、やはり知識の習得の後、グループでのフィールドワークということで、実際に塩谷集落の方に行って、みんなで歩いてみるという、そして振り返るという流れです。これも同じように最初は、教えていただき、知識を得る。地震の時に津波が起こることということで、その話をしているところです。これが実際のハザードマップです。ハザードマップの見方なども学習します。同じように防災士さんや、それから神林支所の方もいらっしゃって、話し合いの時には入ってもらったりして教えてもらいました。

今度は、その逃げ地図はどういうものかということで、逃げ地図作成について学習しているところです。今は1人1台タブレットがありますので、特にそのハザードマップとか、自分の地域のものがすぐ分かり、拡大もできます。班で行ったのですが、各自それぞれのタブレットを持っています。ここに防災士さんが入りながら、話をしながら学習しています。高いところに逃げればいいのか、そういうことを単純に考えやすいのですけれども、例えば、その高いところに行った場合、周りが低くてそこに水があったら、そこからもう逃げられないよねとか、ハザードマップで見て水位が上がらない部分というのがあるので、そこに逃げれば大丈夫なんだねとか、どうやったら最短でそこにいけるか。ただ、お年寄りとか、体の不自由な方もいるからどういうふうにして逃げたらいいのだろうかと考えたりします。

最後は、今回学んだことをグループで話をし、それぞれが発表をしました。これは、今年はちょっと天候の関係でフィールドワークに行けなかったのですが、昨年行ったフィールドワークの写真です。塩谷集落の海岸を見て、ここは津波が来た場合ということで、周りを見ながら歩いています。道が細いねとか言いながら、塩谷の町をフィールドワークさせていただきました。

続いて、3年生は避難所運営ゲームです。これは実際の避難所を想定して生活空間の配置や、避難所で起こる様々な出来事に、どう対応していくかを疑似体験する活動です。避難所運営ゲームの言葉をとってハグと言われています。活動を通して、まず避難所運営に関する基礎的な知識を得、それから具体的な出来事や対応を考える中で、避難所、それから避難生活への理解を深めること。あと、中学3年生なので、自分の命が安全なことがわかった上で、自分ができることを考える大切な機会にしようと思いました。これも同じように知識を習得し、グループでの現場体験、そして振り返りを行いました。やはり、避難所って何ってということで、今回、実際に神林中学校は夏休み期間中に避難所になったわけですが、これは9月に行ったので、災害が起こってから話になります。聞いている生徒の中には、実際に被災した子たちもいるという状況の中なのですが、話していただきました。そして、これがゲームの始まりなのですが、学校の体育館、学校を使っただけの避難所という設定で行われます。

まず、どこに何を置くかということを考えます。受け付けが必要とか、体の具合が悪い人どこにいてもらうとか、そういうことで、まずどこに何を置くかというところを子供たちは考えています。今度はゲームなのですが、1人の子がカードを持ち、そのカードには、具合の悪い人がいますとか、日本語のわからない人が来ましたとか、タオルが送られてきましたとか、お弁当が来ましたとか、トイレはどこですかと聞いてくる人がいますとか、そういういろいろな状況が書いてあります。その人はカードを読みながらハイ、ハイとそれぞれの子たちに渡して行って、それをどこに持っていき、どこに避難させるかというゲームなので、瞬時に判断をして、置いていかなければならないということです。皆本当に一生懸命、真剣にやっていました。どこのグループに行っても、やはりどこに何を置くかというのはそ

それぞれ違うのですけれども、それぞれ3年生が真剣になって取り組んでいて、見ていた先生方が感動したぐらいでした。これが終わってからの振り返りなのですけれども、やはり感想の中にも、今回の大雨災害でも自分たちができることがあったのだなということで、次回そういうことがあったときは自分も手伝いたいというような感想もあって、本当に素晴らしいゲームだったなと思っています。

ゲームだけではなく、実際に避難所で使う段ボールのベッドと簡易トイレを作成するという体験もさせてもらいました。実際にこれは簡易トイレを作っているところです。これは段ボールベッドを作っているところです。これはプライベートの空間を作るということで、そういうプライベート空間のテントというか、簡単にできるプライベート空間になっています。実際にこのようにみんなで寝てみて、どんなかなってということで確かめています。

生徒の感想を読ませていただきます。まず一年生のマイタイムラインをした生徒の感想です。私が今回の防災教育で学んだことが、自分にはあまり関係ないことだと思っていたけれど、話を聞いて、自分にとってとても大切であるということです。今回学んだことを踏まえて、家族と相談して、防災バックなどの避難用具を用意し、避難するときは落ち着いて行動できるようにしていきたいと思います。

2年生は、防災教育として住んでいる地域に津波が来たときに、どうやって逃げるかを考える逃げ地図づくりをしました。そこで現地に行き、どこが危険でどこまで逃げればいいのか、どこまで逃げれば安全かを考えました。塩谷に住んでいながら、そういう機会がなかったので、とても新鮮でした。万一災害が起こった時に今回教わったことを生かして、自分の命を守れるようにしたいです。

3年生は、避難所を再現したゲームでは、次々と来る避難者や課題によって、とても対処するのが大変でした。また、段ボールベッドにはお年寄りの方に対して、少しでも快適になれるような工夫がされているなど、知らないことが多くありました。今回の防災教育を受けて、冷静に行動するには、日頃からしっかりと準備をしていくことが大切だと思いました。このような感想をもらいました。

私はブログにもその様子をよく発信しているのですけれども、9月の学校だよりも書いたのですが、体育祭の日の後に私のところに來られた保護者が、校長先生やっぱり防災教育は大切ですよねということで、体育祭が終わって帰る保護者だったのですけれども、私のところにわざわざ来てそう言ったので、どうしてですかみたいな話をしたら、実は小岩内の方で、8月の災害の時に情報を確認したり、それからハザードマップを見て早く逃げようよと、避難しようよって言ったのは、その中学生だったと。それでおじいちゃん、おばあちゃんが動きましたと言っていました。やっぱり先生大切なんですねっていう話をされていて、私は本当にありがたかったなあとと思っています。

それから、避難訓練もそうなのですけれども、災害の時には自分の命を守るのが一番大事だよという話をしているのですけど、3年生のように、中学生として何ができるかということも考えさせていたところ、これも体育祭のときに聞いたのですけれども、実は野球部の3年生がボランティアに行っていたということで、それは後になってから分かったことなのです。その子たちはボランティアに行ってきたよとか、そういうことを一切自慢するわけではなくて、本当に自分たちで行かなければならないなと思っています。素晴らしいなと思っています。本当に子供たちにとって防災教育は大事だし、これからも取り組んでいきたいなと思っています。

これからなのですが、今、2年目です。昨年、令和3年から始めて、今年が2年目ですが、これからも実施をしながら修正を加えて、本当に神林中学校の独自の防災教育としていきたいなと思っています。そして、昨年もできなかったし、今年度もできなかったのですが、地域の防災士さん、将来は地域全体の防災士さん、防災士さんだけではなく地域全体を含めて、地域とともに取り組む活動として、この3つの活動に地域の方や保護者の方を入れて、みんなでやっていくというふうな活動をしていきたいなと思っています。以上です。

ありがとうございました。

○市長

ありがとうございました。

大変素晴らしい実践の報告をいただき、防災教育の実施状況が本当に大変よくわかりました。また、全体の小中学校の問題につきましても、詳細の資料ありがとうございました。

引き続き、総務課危機管理室の方からお願いします。

○大滝危機管理室長

総務課危機管理室の大滝と申します。

今現在、市の方で行っております、地域に出向いての防災出前講座について説明させていただきます。危機管理室では学校に限らず、各町内のお年寄りの方々の地域の茶の間とか、あと町内の行事とか、そういうところで出前講座を行っております。皆様にお配りしました資料の3-1、出前講座の実施実績というのをご覧いただきたいと思います。これは学校に限らず、各町内とかに出向いているものでありますけども、こちらの表ですと、学校は31番目の村上南小学校6年生、裏面ご覧いただきますと、51番目にも村上南小学校があります。54番目に平林小学校、あと、その次のページの65番目ですと中等教育学校、67番目リハビリテーション大学の方にも行っております。このような形で学校の方に出向いておりますし、あと保育園などにも出向いております。その年代、学年に合わせたメニューを担当の先生と相談しながら、事前に打ち合わせしてメニューを決めさせていただいております。

どんなメニューがあるかと言いますと、もう一つの資料3-2をご覧いただきたいと思います。メニューの一覧表をご覧いただきたいと思います。例えば1番目、今ほどお話もございましたけども、マイタイムラインづくりのメニューになります。こちらは、洪水、大雨の災害が発生しそうな場合、自分の住んでいる場所がどんな危険があって、どのぐらい時間をかければ、事前に安全に逃げることができるかというのをシミュレーションする講座になります。こちらは中学生以上の子供たちが対象になります。

裏面をご覧いただきたいと思います。7番目に『なまずの学校』がございますけども、こちらの方は、ゲーム感覚で紙芝居、こちらちょうどお持ちしたのですが、こういう紙芝居をお見せして、例えば地震があった場合に、このダンスの下敷きになった方をどうやって助けますかというのを皆さんで考えていただきます。こちらの方にカードを並べておいて、例えば、トンカチとかチェーンソーとか、そういう道具のカードを並べておいて、子供たちに選んでいただいて、そして回答をして、良い回答をした方には、お金ではないですけど、こういう50点とか、ご褒美をあげて、そういうのを楽しんで学んでいただく講座になります。これがなまずの学校というゲームになります。これですと小学校の低学年とか、親子の方々ですと楽しみながら学べるかと思っています。

あと、最近多いのが避難所の設営体験になります。下から2番目の方がございますけども。以前は避難所といいますと、着の身着のまま逃げてくるような形になっていましたけども、最近、コロナ禍になりまして、先ほども写真が出ていましたけれども、世帯ごとのテントのようなパーテーションというものでスペースを区切って避難所を設置しております。それですとプライバシーが守られますので、そういう設備も最近充実してきております。そういうパーテーションを組み立てて、段ボールベッドを組み立てていただいて、それを子供たちに体験していただくというのをしております。

あと、最近は学校の授業だけでなく、PTAの行事活動でも要望が大変多くなっておりまして、そういうところにも出前講座で出かけております。例えば、村上小学校ですと、防災キャンプというのをやっております。夏休みの時期に小学校の体育館で一晩避難所体験をしていただいて、キャンプのように避難所体験していただくというようなこともやっております。ここにはないメニューでもいろいろご相談しながら、相談に応じてメニューを組み立てておりますので、その際は危機管理室の方にご相談いただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

最後に災害が発生したときは、素早く行動をとることが大切になります。子供たちには、まずは自分の命を守るという知識を最低限身に付けていただきたいと思います。今回の8月の豪雨災害でも、実際に停電とか、浸水とか断水などがございました。そして土砂災害によって、家を失った方もいらっしゃいます。最近の現代人はスマホをなくしただけでも、パニックになってしまいます。電気がないと生活ができないと、そう思っている方もいらっしゃいますけども、実際停電になっても、例えば、カセットコンロが家に1つあれば、ご飯を炊くこともできますし、暖をとることもできます。そのような知識を少しでも身につけていただきたいと思います。そういうことを防災講座で教えていきたいと思っています。また機会があれば、いつでもお声掛けいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。以上で紹介の方を終わります。

○市長

ありがとうございました。

それでは資料の説明が終わりました。皆様方から、ただいまの説明をお聞きになった上で、ご発言いただきたいと思いますがいかがでございましょうか。どうぞ。

○大滝委員

いま、発表をお聞きして、非常に素晴らしい取り組みをされているなということで、すごく感心しながら聞かせていただきました。

今まで、我々大人は、子供は大人が守るものみたいな、そういう意識がどうしてもあったのですけれども、子供たちが自分たちでできることは何かというふうを考えていくという、そういう発想は素晴らしいなと思ひまして、それがやがて大人になって、自分たちの地域を守る主戦力になっていくということは、将来にも繋がる話ですし、非常にいいことであるなというふうに思います。

小さい子供から何かそういうゲーム感覚のようなもので、ちょっと楽しみながら、しかもこういう防災のことを考えられるということも素晴らしいなというふうに思っていました。

以上です。

○市長

ありがとうございました。

本当ですね。非常に良い視点だというふうに思っております。引き続きまた頑張ってくださいというふうに思っております。

他にございませんでしょうか。どうぞ板垣委員。

○板垣委員

発表、大変ありがとうございました。

その中で子供たちからお年寄りに避難しなきゃと言ったという話を聞きまして、大人は普通に仕事に出れば、日中に居る人間っていうのはその年代なのだなということであると。やはり学校で継続的に防災教育を行っているというのは、何かあったときに行動できるというのがすごく大切なのだと思いました。8月3日に、私はすぐその三面川沿いに、直線距離で何十メートルしか離れてないところに家があるのですが、たまたま甥っ子、生後3週間ぐらいの赤ちゃんを連れて来ていたときで、じゃあどうすると考えた結果、この子は避難所には連れていけないから、垂直避難しかないねという話になりました。たまたま三面ダムが放流すると言っても、堤防を超えることはなかったのでも、何もなくて終わったのですけれども。ただ、それっていうのは、そのとき精一杯考えた結果であって、マイ知識というのはほぼないところから始まった考えなので、本当だったら、もうちょっと違う選択肢もでてきたのか

なと発表聞きながら思いました。

もう一つがこの題材というか、話の中で、私も消防団、数年前まで入っておりまして、新しく地域に戻ってきた若い世代がいるので、誘いに行ったら、その人は出てこなかったのですが、親御さんが、いやうちのはいいからと。消防団は防災士ではないのかもしれないですけど、水防訓練とかそういうので、何もしてない人よりは、ちょっと知識はあると思うので、ぜひとも率先して消防団に入れるような意識づくりも必要なのかなと思って聞いていました。以上です。

○市長

ありがとうございます。

大変重要な指摘が含まれているのではないかというふうに思っておりました。

先ほど、宮川先生のお話の中にあつた通り、中学生がそういう意識になるというのは、誰が助けてくれるのだろうっていうのは、これ時間でも違いますから、日中であつたり、夜間であつたり、早朝であつたりという時、考えれば考えるほど、多分、非常に多くの手が必要になるのですよね。その中で究極の生後3週間ですからね。大変な状況の中で、多分、命の選択みたいな状況に陥ったのだろうというふうに思っ、本当に大変だったなと思いますけど、そういう時にどういう選択肢があるのか。逆に言うと避難所に、例えばそういうふうな生後3週間の子供を抱えたお母さん、ご家族が来たときに、どういうふうなフォローアップができるのかっていう避難所の機能の部分を含めて、非常にこれから考えていかなければならない部分だなと思って聞かせてもらいました。子供の場合も当然ですけども、例えばベッドであるとか、要支援者であるとか、重篤な基礎疾患持っている方とか、いろいろなケースがあります。そこのところはしっかりと備えておくことが大切だなと思って聞かせていただきました。ありがとうございます。

小川さんどうぞ。

○小川委員

素晴らしい報告を聞かせていただいて、どうもありがとうございます。

いま、地域とともにある学校ということを進めていると思うのですが、地域とともに取り組む活動ということで、その地域、その地域でいろいろな土地柄、地形とかそういうことでもありますし、住んでいる方のいろいろな考え方もあると思うので、地域の方と一緒に取り組むというのは、すごく大事なことなんじゃないかなあと思ってお話を聞いていました。

あと、中学生ぐらいになって、力もついてきたり、判断力もだんだん増してきたりするのに加えて、地域、最近やはり高齢化しているので、お年寄りの話もありますし、地域とともに活動して行って、地域のことを引っ張ってってくれるような力に中学生もなってくれるのかなあと思って、すばらしいなと思ってお話を聞いていました。

私自身、夏に大変たくさん雨が降った時は、主人は仕事からその日は戻ってきませんでしたので、子供が避難するどうするっていうのと、80過ぎたおばあちゃんはどうするって言って一晩明けたら、もう自分の家から出られない状況だったので、そういうときの判断であるとか、地域との自助とか共助の関わり合いが薄くなってきているところで、新しい繋がり方として、学校と地域っていうのは非常に大事な活動で大切な案件なんじゃないかなあと思ってお伺いしていました。

この活動が、先生もおっしゃっていましたが、1年、2年、3年じゃなくて代々続いていくことで、子供たちが防災に興味を持ってくれたり、ボランティアに興味を持ったり、地域のことは自分が守るんだっていう気持ちになって育っていってくれば、それこそ村上市に大きな力になるのではないかなあと思ってお話を伺っていました。ボランティアセンターにも神林中学校のお子さんだけでなく、村上第一中学校のお子さんであるとか、中等教育学校のお子さんであるとか、いろんな子が、自分も何かしなくてはということで、自分で電

車に乗ってきてくださったり、皆そういう気持ちは持っているけれど、そういうところで、こういう活動を学校で取り組んでいてくださると、背中を押す一步になるんじゃないかなと思って、素晴らしい教育だなと思ってお伺いしました。

今日はどうもありがとうございます。

○市長

本当にそうですね。

中学生が率先して、そのボランティアで現場応援に行っていた。なかなか危険な場所にも関わらず行くっていうのは、本当に勇気が要るのですが、そういう気持ちを彼らはすごく持っていて、それが少し先にいって、例えば消防団への足がかりになったりすることも考えられるので、非常に重要だなあと考えています。毎年、消防職員を採用するのですが、彼らの動機づけというのは、火災現場で働く消防署員の姿を見たとか、実際に被災をした経験があるとか、災害現場へボランティアに行ったことが彼らのそういう人生設計の動機づけになっているところがあります。これはやはり教育ですよね、大切だなあというふうに思っていました。

今回、小岩内の松本区長さん、今の小川さんの話もそうなのですが、ちょっと詳しい時間は承知していませんが、午後 11 時前までは集会施設にみんな避難していたと思うのですが、そのタイミングでこれは駄目だということで、すぐに消防団と防災士と区の役員の皆さんが連携をして、今いるところから高台に避難させた。結果として、日をまたいで午前 2 時くらいだったと思いますが、土石流が押し寄せました。だから、タイムラインは大変重要であると同時に、そのタイムラインで動けるかどうか。動けなければ、そのタイムラインは機能しないので、実際にタイムラインのとおり動かすことができるのかということが大事だと思います。なかなか躊躇しますよね。私自身も災害対策本部にいて、家族はみんなそれこそ、私の自宅も三面川から直線距離にすると、前回の羽越水害の時でも水が上がっている状況だったので避難しました。避難したのですが、その逃げるという勇気。今回の大雨災害で避難したのは、市内全域で 1000 何人だったかな。それでも 1000 人です。57,000 人弱に避難指示を出しているのですが、実際に避難所に逃げている方は千何人です。あとは皆さん垂直避難という形で、次の日の朝見たら、もう外に出ることができないような状況になっていたわけです。だから、そここのところのタイミングと実際に動けるかっていうのが非常に重要だなというふうに、小川さんのお話聞いていて感じました。本当ありがとうございます。

○小川委員

おばあちゃんとか、年齢が高くなってくると、もう自分のことは放っておいてくれ。自分たちで逃げたければ逃げてくれと。そういうわけにはさすがにいかないのですよね。そういう時に中学生とか、孫の話を聞くかどうかかわからないのですが、よその中学生とかが来て、もう大変だよって、もう逃げなければならないよと言ってくれれば、孫とか、若者のいうことは大きいと思います。

○教育長

今、多くの小中学校で村上市 SDG's の視点を大切にして、特に総合的な学習に取り組んでいます。荒川中学校さんなんかも、地域の課題を受けながら、地域と連携協働して実践をしております。神林中学校さんは、この防災教育ということで、本当に校長先生はじめ、先生方が子供らにける願いを強く持たれて、子供を変えようとか、子供に力をつけたい、時代の担い手を育てたいという思いで実践され、実際に成果が現れているという点で、素晴らしい実践だったと思います。多くの学校でもっと防災教育に力を入れた事に取り組まなけ

ればならないと思っております。

先ほど、仙田管理主事が説明されていた防災教育プログラムも、神林中学校さんはしっかり受けて取り組まれたのだと感じたのですけれども、このプログラムに培われている基本理念っていうのが五つあるのだそうです。

一つは、災害から生き抜く力を育む、自分の命は自分で守ることができるようにする。これはよく言われることですよね。これが何より基本だと思います。中学生であっても、子供ですし、まず子供は守られなければならないということは大事にされるべきだと思います。

二つ目は、自然の恵みと災害の二面性をとらえる。脅しの防災教育は駄目だと。こんなところに住みたくないという弊害を生じさせる。郷育のまち村上、郷土愛を育む村上市ですので、やはり二面性をしっかり教えなければならないのですよと。

それから三つ目は、だからこそ、自然と向き合う、正しい姿勢を身につけさせる。自然の二面性を踏まえてその地に住まう作法を学ぶ。村上市は広いですから、それぞれの地域でいろいろな作法があるのだと思います。

それから四つ目は、一生使える災害から生き抜く力を身につける。これはまさに、今ほどの発表にあったことだと思います。学校にいるときだけの訓練ではないと。一生の間につとどこで役に立つかわからない。こういうことを意識させる学習でなければ駄目だと。そして、助けられる側から助ける側に、特に中学生の場合は、その心構え姿勢を学ばなければならないということで大変参考になりました。

そして最後に、20年かけて災害に強い地域文化を作るというのは、10年経つと中学生は大人になり、地域の若者になる。そこで地域で活躍する。さらに10年経つと、彼らは親となる。家庭が育つように、そういう長い目で防災教育には取り組まなければならないということで、非常に村上市、そして教育委員会の願いとも合致する防災教育だと思いますので、先ほど述べたように、多くの学校で積極的に地域と連携して取り組んでいく必要があると感じました。

ありがとうございました。

○市長

ありがとうございました。

どうでしょう。よろしゅうございますか。

○大滝委員

宮川先生に質問なのですが、こういう子供たちの取り組みに対して、保護者の方はどういうご感想を持ってらっしゃいますか。

○宮川神林中学校長

保護者の方が体育祭の後に声をかけてくださった以外に、実際にどうですかという話は保護者の方に聞いていないです。だから、本当に子供たちのためになっているのかなとか考えましたが、そういうふうにも子どもたちが実際に行動したということが聞こえてきたので役に立ったのかなと考えています。

○大滝委員

今後の取り組みとして、学校の防災教育をさらに地域の方に広げていきたいというお話でしたので、まずは保護者の方に一緒に入ってもらって、一緒に研修なりゲームなりをしてもらうような、プログラムもあってもいいのかなというふうには思うのですけれど。

○宮川神林中学校長

新型コロナの感染に気をつけながら、本当は一緒にやりたかったのですが、やはりちょっと無理だなということで、今後検討していきたい。

○市長

神林地域は比較的防災士が、それぞれ防災士の連絡協議会の会長が内山さんでいらっしゃいますので、積極的に地域の運動会みたいな時も防災運動会みたいなメニューで、棒などで担架を作って、それで障害物競走みたいなことをやって、日常的にそういうふうな環境づくりは非常に大切でしょうね。学校からのアプローチもそうだし、そういう地域からのアプローチとそれが両方相まって非常に良い関係性ができているかなと思います。それが全体の地域に広がっていくといいなと思いますので、ぜひ学校現場から、プッシュしてもらいたいなという感じを非常に受けました。

最初に、一年生のマイタイムラインを作る時に気象情報の入手方法を調べていると言いましたけど、それは実際にタブレット使って調べていますか。

○宮川神林中学校長

タブレットを使って、村上市のホームページから調べています。

○市長

あと、ちなみに中学生だと、今どういう状況になっているかわかりませんが、中学校はスマートフォンを持ってもよいのでしょうか。

○教育長

持っても良いです。

○市長

小学校も良いのでしょうか。

○教育長

小学校も保護者に任せてはありますが。

○市長

今、キキクルがありますよね。気象庁から防災情報がプッシュ型で出てくる、そのようなツールを常に使えるような。いろいろな気象情報が出るアプリケーションがいっぱいありますが、気象庁が運用しているキキクルはいいですね。キキクルだと自分が住んでいるところの河川が黒くなったり、紫になったり、赤くなったりするっていう状況があって、市からあれと連動させながら、避難準備情報であったり、自主避難所の設置であったり、いろいろな情報が流れてくる。そうすると、マイタイムラインとぶつけたときに、身の回りの環境がどうなっているのか。雨が降っていると、きっと外に出ませんよ。だから、ああいうふうなツールを使えるような教育も必要だっていうふうに実は思っていて、まさに学校DXなので、タブレットだけでなく、自分のスマホなんかも身を守るためのツールとして重要だなと思います。

この前、原子力の総合避難訓練を行ったのですが、去年は村上市に柏崎と刈羽村から避難者が入ってきた時に、手書きで氏名や住所などを書いてもらって、検温をしていた状

態だったのですが、今回は顔認証のシステム入れました。なかなか通信環境の関係もあって非常にスムーズだとは言えなかったのですが、普通に通るだけでピッと認識してくれます。システムには事前登録をしますのですけれども、例えば、マイナンバーカード情報がそれと連動して顔認証が動くような形になると、多分、どこの誰が今どこにいるかっていうところまでわかる。なかなか、個人情報の兼ね合いがあって、非常に微妙なところはあるかもしれませんが、有事の際にそうやってその個人を特定して、その生存を確認できるという意味においては、災害時のDXの活用って非常に重要だなあと思っています。実際の災害であれば、雨が降っているときに逃げてきて、氏名や住所を書いていられないと思います。そういうところも含めて、訓練は訓練として、日常的に繰り返し、繰り返しやることも必要なのですが、簡便性を向上させるようなところはどんどんデジタル化していくことが必要だと思います。

小学校、中学校の子供たちはタブレット教育をやりながら、また、スマートフォンなども使いながら、良い悪いの議論は置いておいて、そういう環境に慣れている子供たちなので、その子供たちが、10年、20年たったときはそれが当たり前の世界になる。その世界の中でどういうふうな形で自分の命を守るかということも、我々がしっかり見据えてやらなければならないと思いますので、ぜひ引き続き教育委員会からも、その辺のところを踏まえているらご指導ご助言いただければと思います。よろしくをお願いします。

皆さんからご発言いかがでしょうか。よろしゅうございますか。ありがとうございます。

それでは、防災教育についてということで宮川校長先生からお話をいただきました。非常にいいお話でしたし、刺激的でしたし、これからの方向性も見出すことができましたと思います。どうもありがとうございます。

それでは2点目その他でありますけれども、まず事務局の方で用意はありますか。ないですか。わかりました。

それではせっかくの機会でありますので、皆様方からその他でご発言ありましたらいただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。板垣委員どうぞ。

○板垣委員

教育とは関係ないのですが、村上市に引っ越して来られた方、数名から聞いたのですが、20代、30代の方がどこかに交流しに行きたいのだけど、どうやって調べればいいか。何かの会とか。地域の方と仲良くなりたいたいから、地域に溶け込みたいのだけどということ。それこそ近辺の集落なり、区なりでは、そういうものはあるかもしれないんですけど、もう少し広めの村上市全体で何か溶け込めるような組織はないだろうかということでした。ホームページ見ても、なかなか出てこないということです。

○市長

遊び場とか、おしゃべりをする場などというのはあまり聞かないですね。

その方々は移住されてきた方なので、そうすると、まずその地域のコミュニティから人が繋がって行って、広がっていくという話になるのかなと思います。とりあえず、多分受け入れてくれるのは、地域おこし協力隊のメンバーがOBも含めてチーム作っているんで、その誰かに声かけしてもらえれば、彼らはすごく仲良くしてくれるのではないかと思います。確かに、そういうアプローチを市ではしていないかもしれませんが。もしでしたら、直接市に問い合わせをいただいたり、板垣さん経由でも結構です。私も戻ったらこのことについて話をしてみますので、メニューとして提供できるのであれば考えてみたいと思います。

あとは、20代、30代であれば現役で働いていたり、家族を持っていたり、子供も小さかったりしますよね。

○板垣委員

そこから広がっていくのに時間かかるので、もう一気に入り込みたいという人なのでしょ
うね。

○教育長

小川委員さん、いかがでしょうか。

○小川委員

趣味があれば、それこそ生涯学習の関係で各公民館とかでサークルとか、自分の趣味のと
ころに入られるとそこから輪が広がったりします。

○板垣委員

そのアプローチが最初どこに行けばいいかっていうのが・・・

○市長

サークルの講座はオープンになっているはずですよ。それこそ、Line 配信も始まって
いて、そのまま市のホームページにアクセスすることができます。そういった方々は、どん
なふうにして検索するのでしょうか。『村上市 繋がりたい』といったキーワードで検索す
るのでしょうか。

○教育長

どこかが、その願いを受けとめれば、具体的に繋いであげることにはできると思います。

○市長

その方々は、孤立しているわけではないですよ。

○板垣委員

違います。

○市長

そこが心配だったのですが、わかりました。その辺を柔軟に対応できるというか、可視化
できるような形になっていることも大切だと思いますので、貴重なご意見としていただい
ておきます。ありがとうございます。

その他ございませんか。よろしゅうございますか。ありがとうございました。

今日の意見交換は、ここで終わらせていただきたいというふうに思います。大変有意義な
時間だったと思います。ありがとうございました。

○総務課長

これで第1回教育総合会議を終了とさせていただきます。大変ご苦勞様でした。